協議会だより

道北技術士協議会

第 3 回現地研修会を開催
── 北の活力―地域に躍動する技術・マネジメント ──

はじめに

春先は低温で農作物の生育が心配されましたが、現在は、平年以上に回復し、豊穣の秋がまっさかりです。

さて、本協議会では、去る 7 月に表題のテーマで研修会を開催しましたので、その概要について報告します。

1．研修日程および概要

研修には、旭川市、札幌市、空知管内などから 14 名が参加しました。当日は、前日の知床世界遺産登録を祝うような日本晴れとなり、汗ばむ気温のなかで訪問先を貸切りバスで回りながら研修しました。

⑴ 研修名称：道北技術士協議会第 3 回現地研修会

⑵ 日時：2005 年 7 月 15 日(金)　10：00－17：00

⑶ 場所および内容

ⅰ）北海道立北方建築総合研究所(旭川市緑が丘)
施設紹介ビデオ、屋内施設視察、屋外実験住宅視察

ⅱ）㈱道新旭川印刷（旭川市工業団地）
製作過程ビデオ、印刷・梱包工程視察

ⅲ）旭川市旭山動物園（旭川市東旭川町）
旭山方式の概要説明、行動展示状況視察

⑷ 参加人員：14 名

2．北海道立北方建築総合研究所

本研究所は、寒冷地における防寒住宅の技術開発普及を目的に「寒地建築研究所」として 1955（S 30）年に札幌市に創設されましたが、2002（H 14）年の旭川市移転に伴い「北方建築総合研究所」に改組し、北方地域における建築とまちづくりに関する総合的な調査、研究、支援等にあたっています。事業内容は、積雪寒冷地住宅の技術向上に対する支援をはじめ、防災、省エネ、自然エネルギーの利用、資源リサイクル、ユニバーサルデザイン等、まちづくりの多様なニーズに即した調査研究や不燃材料等の性能評価を行っています。

これらの研究成果は、新庁舎の設計にも取り入れられ、アトリウムを活用したパッシブ換気、雪と氷を利用した冷房、昼光の利用、外断熱工法など環境負荷を低減する省エネルギーの実験モデルになっています。

研修参加メンバー（道新旭川印刷工場前―撮影　老氏）

特徴的な新庁舎（第 10 回環境・省エネルギー建築賞）

数ある施設の中でも印象に残ったのは、風雪実験室です。タワービル建設による吹き溜まりを再現するための市街地モデルや人の背丈ほどもある送風機を初めて見ることができました。また、思いがけず冬の実験風景をみる機会にも出会え、一同感激いたしました。

3．㈱道新旭川印刷

北海道新聞は、1942（S 17）年、小樽新聞、釧路新聞、北海タイムス、旭川新聞、十勝毎日新聞、旭川タイムス、北見新聞、室蘭日報、網走新報、根室新聞、新函館の 11 紙が一緒になって誕生し、現在の印刷部数は、朝刊が約 123 万部、夕刊が約 69 万部になっています。

札幌本社の紙面データは、全道 6 カ所の印刷工場へ高速デジタル回線を通して送信されます。旭川工場では、受信データをプロッターによりフィルム出力し、そのフィルムを薄いアルミ版に焼き付けし、これを印刷機にセットして原版にします。印刷された新聞は、販売所ごとに自動的に梱包され、搬送コンベアーによって輸送トラックに積み込まれます。

見学者は、この印刷工程を回廊からガラス越しに視ることができます。まずは最新鋭輪転機の大きさと 1 時間に 15 万部（時速 33 km、2,500 部/分）という印刷スピードに驚かされます。スピード感は数字以上です。

カラー集合写真付〝見学記念新聞〞の配布

4．旭川市旭山動物園

入園は午後の 3 時を回っていましたが、相変わらず園内は混雑状態です。本州からの修学旅行の後押しもあり、このとき既に昨年を上回る 50 万人の入園者を記録していました。人気は、その後も衰えることなく、1 カ月後の 8 月 16 日には 100 万人を突破し、9 月上旬には昨年夏期の入園者数を超える盛況ぶりとなっています。

人気について、坂東副園長は「うれしいことですが（短時間見学が多く）動物をゆっくり見て欲しいというのが本音です。今後は、これを維持することが課題です」。加えて行動展示という手法については「奇をてらったものではなく、動物の本質を追求した結果です」。復活の決め手ともなった〝いのちを伝える〞整備コンセプトについての心境を淡たんと話して下さいました。

坂東副園長講話〝本質を追求した結果です〞

5．参加者名簿

寺西　輝芳	旭川測量設計㈱
大槻　正幸	㈱及川土木設計
鍛冶　鐵夫	㈱イズム・グリーン
藤島　義知	〃
山崎　芳樹	㈱北開測地
加藤　昌宏	㈱富士建設コンサル
菅野　哲朗	㈱アサヒ建設コンサルタント
老　　敦史	〃
鈴木　孝善	五大建設コンサルタント㈱
遠藤　　優	新谷建設㈱
打田　克也	㈱ルーラルエンジニア
武田　　孝	〃
三上　園子	〃
菅原　敏明	〃

おわりに

研修を終え「活力」の源泉に〝基本的な生き方〟を視ることができました。それは、事業の絞込みと差別化、地理的細分化と時間の最短化、特徴や本質の直接的伝達など、〝戦略的〟な要素を持った生き方です。

最近のキーワード、MOT（技術経営）を考えてみる上では、大変参考になった研修だったと思います。

最後になりますが、会員皆様のご健勝を心からお祈り申し上げ、道北技術士協議会からの報告とさせて頂きます。

（文責：道北技術士協議会　会長　菅原　敏明）